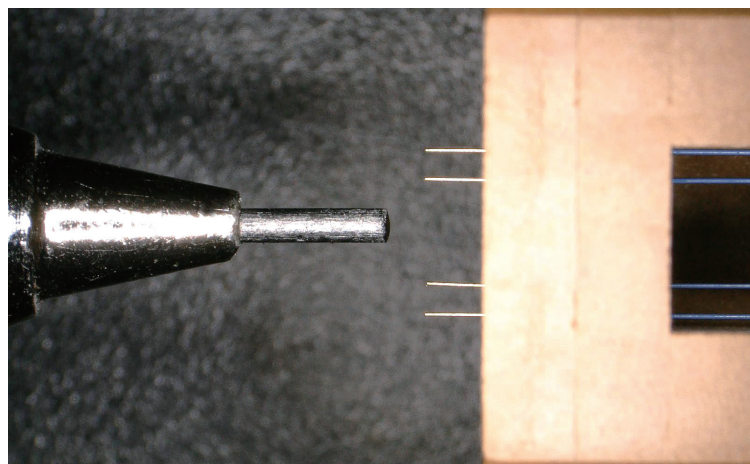


日本電針株式会社

生産プロセス革新による
スマートデバイス・医療向けの基板治具・プローブへの新展開

治具製作、部品から内製化

プリント基板検査用のコンタクトプローブのメーカーとして40年以上の歴史を持つ日本電針。家電製品などに組み込まれた電子基板上のパターンに断線がないか、ショートしていないかなどを電気を流してチェックする際の電極の役割を担うのがコンタクトプローブ（探針）だ。



4本のプローブ（金色の先端が左側に突き出している）を装着した治具。左側はシャープペンの先端。日本電針のプローブは最小ピン間隔0.11ミリの実績がある

あり、プローブ自体にも一定のばね性を持たせてある。基板上に2本立てたプローブの間で電気が流れれば、その間のパターンがしっかりつながっていることが分かる。部品が載っている実装基板でも、同

じように電気を流した時の抵抗値で基板の良しあしも判断できる。

同社はプローブだけでなく、プローブを使った検査装置である治具の設計、製造販売も一部で行ってきた。この治具事業を拡大しようと2016年11月、ものづくり補助金を活用して大型のマシニングセンターを導入した。

それまで使っていた加工機は加工速度が遅く、樹脂しか切れないなど性能面の制約が多く、込み入った作りの部品や金属を加工する場合は外注に頼るしかなかった。新導入のマシニングセンターはアルミニウムなどの金属板や精密な樹脂加工も可能で、こうした治具用の部品が社内で作作できるようになった。

伊地知慎取締役統括部長は

「設計も含めた全工程が社内ですべて完結できるようになり、治具1台から今までより安く、早く提供できる。他社にはないセールスポイントとしてアピールしていきたい」と話している。

■ 日本電針株式会社

本社：三芳町北永井509-1

代表者：代表取締役 山口勇

設立：1976年1月 資本金：1000万円 従業員数：13人

電話：049 (258) 4111

メモ▶富士見市で創業。その後、東京都千代田区、豊島区を経て1994年11月、現在地に移転。米国、ヨーロッパ、東南アジアにも販売網を展開している。